

第2次健康日本21安城計画第2回策定委員会会議録

日時：平成30年2月23日（金）

午後1時30分～午後3時

場所：保健センター 2階 講座室

出席委員：清水誠司、浅井章夫、由良俊英、宮下晴美、黒柳厚子、鈴木広幸、酒井多香子、矢田力三、岩瀬英行、布目政仁、大屋順彦、神谷由美子、柳澤義雄、吉田裕之、古居敬子、小田克成
（敬称略）

助言者 愛知医科大学看護学部教授 坂本真理子

事務局 子育て健康部長、健康推進課長、健康推進課主幹、健康推進課課長補佐、
健康推進係長、保健指導係長、健診係専門主査、健康推進係担当者

傍聴者 なし

《議事次第》

1 あいさつ

2 議題

(1)健康に関する基礎調査報告書について…資料1

(2)地域意見交換会について…資料2, 3

(3)今後のスケジュールについて…資料4

3 助言者による講評

[事務局]

本日は、大変お忙しい中、第2次健康日本21安城計画策定委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議は、安城市市民参加条例の第9条第4項に基づき、公表し、市民の傍聴をお受けしています。本日は傍聴についてのお申し出がないようですので、このまま続行させていただきます。

なお、会議の議事録についても公表させていただきます。安城市のホームページ上にて公表いたしますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

1 あいさつ

オリンピックもあと3日で閉会式を迎えます。国会では、労働の問題が話題になっています。

本日は、調査結果の報告があり、この結果をふまえ、どのように進めていくのか考えていく場になります。6月の会議から、時間が経ちましたので、この会議の確認をしますと、この計画は国の健康日本21計画より1年遅れてすすめています。安城計画は平成26年から計画の推進をすすめており、最終評価の2023年の中間にあたる平成29年、30年で中間評価をするための会議となります。あんじョイプランや障害者の計画など他の計画と関連しながらすすめていきます。この計画の対象は子どもから高齢者まで、幅広く健康推進に寄与しています。基本理念は健康を自己管理していく力を高め、社会全体で相互に支えあい健康づくりを実践するとしています。からだいきいき、こころのびのび、体の健康に加え、生きがいを感じながらというのは、市が目指している「ケンサチ」の基本となり、こういったことをふまえ、今日の会議をすすめていきたいと思えます。

2 議題

(1) 健康に関する基礎調査報告書について・・・資料1

～事務局説明～

委員：資料について説明いただいたが、悪い結果であった箇所についてはどのように改善するかが重要。身体活動や運動では、習慣として時間を作っていない人が約 60%、いかに機会をつくるかが重要と思われます。市の体育館が今改修中で、体育館が使えない場合、公民館や福祉センターを使っています。安城市は公民館が充実しており、活用することが重要。図書館や多目的室などもあります。今どのように使っており、どのようなクラブなどがあるのか周知していくことが必要で、認識を高めるようにすべきだと思います。それが機会創出につながるのではないかと思います。また、8頁の社会参加について、地域活動に参加することが大切だと思っている人は多いが、実際の参加は30%台となっており、認識と行動が乖離しています。

事務局：今回はご指摘いただいたとおり、必要性はわかっているけれども行動に移せない人が多いことがわかりました。意識を行動に移すための取り組みについて、来年度の計画策定の際に検討していきたいのでまた皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

会長：今回の調査の目的は、集計して評価するだけでなく、効果的な保健事業実施のための探索とあります。どのように介入し、効果を高めるかが重要です。今後、計画を見直すことになりませんが、能動的な介入を加えていくことを想定していますか。

事務局：調査結果や事業実績を踏まえ、6月までに中間評価として課題分析し、今後の推進内容を検討させていただく予定です。

会長：報告書は3月に作成、中間評価、計画書案が6月頃から作り始めることになっています。この内容に加えて、先ほどのような提言が必要です。何ができるかを検討していくことが必要になります。

委員：困っていることになってしまうが情報の一つとしてお伝えします。経済界の健康経営が叫ばれており、商工会議所においても、会員に健康経営の呼びかけを行い、少しずつ進みだしたところです。まずは商工会議所の職員に健康維持に関する動きを始めています。運動を施設等で実施するというレベルではなく、普段の生活の中に取り入れるように呼びかけていますが、職員でさえ、なかなか実行に移されないことに悩んでいる状況です。

会長：(専門家である)我々自身もなかなか難しいところです。先ほどにもありましたがいろんな施設があるという周知も大事、簡単にできることを我々自身が見せることも大事だと思います。

事務局：市では市制施行65周年事業として中学生議会を実施し、階段にカロリー表示をする提言がなされました。それをうけて、庁舎の階段にカロリー表示しました。保健センターでも実施しています。身近なところから啓発するよう進めています。企業が健康経営を目指すという点では、勤労世代が健康でないと国民健康保険の医療費の負担につながってきます。医療費削減の視点からも企業の健康経営は重要で、一緒に考えていきたいと考えています。

会長：議題については了承でよろしいでしょうか。

委員：（異議なし）

（2）意見交換会について

・地域意見交換会について・・・資料2,3

～事務局説明～

委員：運動習慣の1日1時間以上ということは全員が対象ですか。一般にデイトIMEで働いている人も含めてですか。

事務局：身体活動は家事や通勤など、すべての体を動かす活動がそれにあたります。少しでも動く意識をもっていただきたいという趣旨のものです。

委員：これを読むとそのように思えないが。

事務局：1時間は1時間続けてではなく、細切れでも構わないという趣旨です。地域で説明する際には今のご指摘を踏まえ、注意して説明させていただきます。

委員：1日に座っている時間がどれだけあるか、という考えでよいですか。

委員：座っているというと、私の介護していた経験では、車いすなので、上半身を動かすようにしていたということもあります。運動という書き方であると、ジョギングなど日常生活（身体活動）とは紐づかないことをイメージしてしまうと思います。

会長：安城は日本のデンマークといわれ、農業に従事したりすることで、運動している人も多いという印象があります。質問の仕方バイアスがかかっている可能性があります。質問の表現をそのまま記載するといいいのではないかと思います。

委員：資料3では「良い」、「悪い」という表現になっているが、言葉遣いはこれでよいですか。きつい印象を受ける気がします。

会長：市としては向上心を掻き立てる意図になることも想定されるかもしれないがいかがでしょうか。

事務局：競い合うことで行動変容の意識が高まる可能性もあります。イメージ戦略として使わせていただきたいのでご了承いただきたいと思います。

委員：資料3であるが、今回は成人を対象にしたものとなっておりますが、未成年、子どもなども対象にしてはどうかと感じます。成人の傾向として、受診率をみると市街地はあまり良くないですが、全体的には県に比べて悪くないように思います。ですが、受診率が高い割に運動習慣が悪いようにみえます。食習慣は国、県よりもよくなっています。資料としては、比較的分かりやすい表現と統計的な数字の両面を出していただけるとよいと思います。

会長：今回は特定健診からのデータをみているので、特定健診の対象年齢以外の状況などについても分析しても面白いと感じます。

事務局：分析する対象を若い年代や高齢者に拡大するためには、アンケートくらいしかできないと思われます。小学校区では数が少なくなってくるので、中学校区レベル等で、今後実施できるかどうかは検討させていただきたいと思います。

委員：地図をみると、町内会の加入有無で差があるのではないのでしょうか。健康に対する意識が高いと町内会加入率が高く、健康意識低い地域は町内会加入率が低いように感じます。健康意識と町内会加入状況はつながりがあるのではないのでしょうか。

会長：市街地は医療機関も多いし、アクセスも良いため、受診率や意識が高まってもよいと思います。市街地が赤く（悪く）、郊外が緑に（良く）なっていることに対し、市の見解、アセスメントはありますか。

事務局：医療機関数、交通アクセスについても市街地の方が良い中で、健康意識や健診受診率は市街地の方が低いのかはまだ分からない状況です。町内会加入率との関係性も興味深いと思います。今後課題分析していきたいと思います。

会長：特定健診を実施している事業所等との関係もあるため、様々な要因を考えていただきたいと思います。

会長：議題については了承でよろしいでしょうか。

委員：（異議なし）

（3）今後のスケジュールについて

～事務局説明～

質疑、意見等なし

3 助言者による講評

助言者：今回の調査結果は、これから力を入れていく点を明らかにし、今後取り組むべき施策を検討するものとなります。課題が明らかになる部分もある一方で、調査結果として回答比率は小さいが、行政においては重要なテーマも含まれているというものもあると思います。行政だけでは健康づくりは限界があります。様々な機関の立場での主体的な関与が重要となります。調査結果をそれぞれの立場で見ていただき、その考察をしていただければ幸いです。

本日、印象に残った意見では、現在ある資源の有効活用は重要で、それは限られた資源で効果を出すことにつながります。健康づくりがなかなか進まないという意見では、インセンティブをどのように考えるかが重要です。全国では競争を掻き立てる取り組みが進み、健康づくりに取り組むとお得という機運ができるとよいと思います。健康づくりを啓発するためには、イメージ戦略として、インパクトをもって住民に提示することが大事です。この資料（資料3）を基にそれぞれの地域で結果の考察や意見交換を行い、会議でお知らせいただくとよいと思います。町内会加入率との関連の意見がありましたが、現在の大規模調査では、地域のつながりと健康度は密接に関係していることが分かっており、どのように健康度を高めていくかについては町内会とともに進めていけるとよいと思います。

会長：皆さんの積極的なご意見ありがとうございました。

策定委員会は来年度1回増えます。ここから先、どう評価してどう進めていくかが大事になってきます。皆さんの立場で積極的なご提言をいただき、策定委員会を進めていきたいと思っております。

[事務局]

次回策定委員会は6月28日の開催予定です。

以上をもちまして策定委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。